

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

今週の注目材料 = 米FOMCは0.25%利上げ見通し

2023年1月30日

2月1日に米連邦公開市場委員会(FOMC)の結果が発表されます。

米連邦準備制度理事会(FRB)は前回12月のFOMCで利上げ幅を大方の予想通り0.5%に縮小しました。今回の会合では利上げ幅を0.25%へさらに縮小すると見込まれています。

前回のFOMCで示されたメンバーによる経済見通し(SEP)において、利上げの終着点(ターミナルレート)の見通しが、従来予想よりも引き上げられたこともあり、発表後は次回の利上げについて0.25%への再縮小と、0.5%維持で見通しが分かれていました。しかし、その後発表された米経済指標の弱さもあり、0.25%で織り込みがほぼ済んだ形です。

今年に入って発表された米主要指標をみると、6日の雇用統計(12月)は非農業部門雇用者数(NFP)や失業率が好結果となったものの、平均時給の伸びが予想及び前回を下回る弱いものとなりました。12日の消費者物価指数(CPI/12月)は総合、食品とエネルギーを除いたコア共に前年比・前月比が市場予想と一致しましたが、前年比に関してはそもそもその予想が11月と比べてかなり弱い伸びとなっていました。18日の生産者物価指数(PPI/12月)はCPIの弱い結果を受けて、弱めの予想となっていました。総合、コア共に予想をさらに下回る弱さとなりました。同時に発表された小売売上高(12月)も予想及び前回を下回る弱い伸びとなっています。

利上げ幅見通しがほぼ一致し、サプライズ要素が少ないこともあり、市場の注目は声明とパウエルFRB議長の会見に集まっています(今回はSEPの発表はありません)。前回のFOMCでターミナルレート見通しの中央値が5.00-5.25%となり、5.25%以上の見通しもそれなりに出たことで、当初は3月以降の0.25%利上げ継続見通しが広がっていました。しかし、上述の米指標の弱さもあって、間に据え置きを挟む形で利上げペースがさらにゆるくなりとなったり、4.75-5.00%で利上げが打ち止めとなったりするという見通しが広がってきています。短期金利先物市場動向から見た利上げ割合を示すCME FedWatch Toolをみると、今回の0.25%をほぼ織り込む一方、3月については20%前後が据え置きを見込んでいます。当初利上げの継続によって5.00-5.25%到達が見込まれていた5月のFOMCに至っては、70%程度が4.75-5.00%以下を見込んでおり、当初の5%台乗せが少数見通しとなっています。その後のFOMCでの見通しを見ても、12月のFOMCで示された5.00-5.25%もしくはそれ以上まで金利が引き上げられる見通しは少数派にとどまっています。

前回のFOMCでのドットプロットを見ると、FOMCメンバー19名の内、わずか2名しかいなかったターミナルレートが4.75-5.00%止まりになるという見通しが市場の大勢となる中、声明や議長会見での今後の見通しにどのような変化が見られるのかが注目されます。

なお、3日には1月の米雇用統計が発表されます。前回は非農業部門雇用者数(NFP)が前月比+22.3万人と、市場予想の+20万人前後を上回り、失業率は前回から悪化するという予想に反して0.1%ポイント低下して3.5%と、昨年9月に付けた約50年ぶりの低水準と並びました。

しかし、発表後の市場の反応はドル売りとなりました。平均時給の伸びが前月比+0.3%、前年比+4.6%と、ともに市場予想(前月比+0.4%、前年比+5.0%)を下回り、11月からも伸びが鈍化する結果となったことを嫌気したドル売りが出た形です。

内訳を見ますと、娯楽・接客部門が+6.7万人と堅調さを維持。ヘルスケア・社会福祉部門も+7.44万人と力強い伸びが続いています。景気動向に比較的敏感な小売業が+0.9万人と小幅ながら4カ月ぶりにプラス圏となったほか、雇用の減少が目立っていた運輸・倉庫部門も+0.47万人と5カ月ぶりにプラス圏となりました。ただ、雇用の先行指標とい

われるテンポラリーヘルプサービスは5か月連続のマイナス圏となる-3.5万人。減少幅は2021年4月以来の大きさとなっています。

今回の予想は非農業部門雇用者数が+18.5万人、失業率が3.6%となっています。雇用の伸びが鈍化して、失業率が悪化という変化だけを見ると厳しい数字に見えます。ただ、水準的に+18.5万人はそれほど弱い数字ではありません(コロナ前2019年までの5年間の平均が+19.02万人です)。失業率も約50年ぶりの低水準という3.5%が低すぎるといえます。

それだけに予想前後の数字であれば、インパクトは限定的と見られます。ただ、その前の米FOMC次第では、市場に利上げ打ち止めに向けた期待が広がっている可能性があります。この場合は弱めの数字に敏感に反応すると思われるので、予想通りもしくはそれ以下の数字になるとドル売りが進むと見込まれます。

山岡和雅 | MINKABU PRESS編集部

1992年チエースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行(旧ナショナルウェストミンスター銀行)移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ(現ミンカブ・ジ・インフォノイド)グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。